

【様式】

平成28年度 学校マネジメントシート

学校名 (津商業高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		商業教育を通じて、「知恵」・「協調性」・「創造力」を持った人材を育成し、地域社会に貢献する学校
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学び、自ら考え行動し、自らの社会的役割に向け努力している。 ・忍耐力、創造力、協調性を養い、自らの可能性に挑戦し続けている。
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す学校像の実現に向け、様々な場面において、情報共有と意思疎通を図りながら生徒の成長を目的とし継続した創意工夫が図れる教職員。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p><生徒> 学ぶ喜びの実感・進路希望の実現・部活動を含め充実した高校生活を送ることに期待している。</p> <p><保護者> 子どもの安心安全な学校生活。学校生活全体を通じた人間力の育成及び進路希望を実現。</p> <p><地域> 学校の教育力を地域に提供し、地域の活性化に貢献してほしい。地域の教育力を学校に活用し、生徒が社会に貢献する意欲や態度を育成して欲しい。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
		<p><家庭> 学校情報の提供。 学校行事等への参加機会の増加</p> <p><中学校> 卒業生の様子、入試情報などを知りたい。</p> <p><地域企業・事業所> 地域産業の担い手としての人材の育成</p>	<p><家庭> 本校教育活動への理解と連携協力</p> <p><中学校> 基礎学力の定着。効果的な指導を進めるために、個々の生徒の情報共有</p> <p><地域企業・事業所> 生徒の生きた学習の場の確保に連携協力して欲しい。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ等の様々取り組みにおいて、生徒が主体的に進める更なる工夫と改善が必要。 ・授業公開や人権フィールドワークの発表会等、せっかくの機会であるのでその取り組みを広く周知できるよう保護者や外部の関係者などの参加を進める工夫が必要。 	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・本校周辺地域からの入学者が多い。資格取得や部活動への積極的な参加の意思を持った生徒が多い。近年は、進学志望者も増加しており就職志望と進学志望の両面での支援体制の充実が急務であるとともに、学力向上に向けたカリキュラムの検討や授業改善等についての検討を進めている。 	
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校外への本校の取り組みの情報発信の方法が不十分である。 ・部活動も活発でいくつものクラブが県内ならず東海地区または全国規模の大会に出場し成果をおさめ学校全体の活性化に貢献している。今後国体やインターハイの地元開催も控えており、クラブ活動の充実が必要となるが、休日などにおけるクラブ指導による職員の過重労働が大きな課題である。 	

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・時代の変化に応じた、商業教育の在り方を模索し、商業高校として魅力ある商業教育活動の実践（地域の商店街や行事に参加して教育活動の成果発表等）や進路保障に取り組む。 ・基礎学力の充実をもとに専門的知識や技能の取得をより一層推進するために、各教科間の連携による取り組みを進める。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育理念や教育内容、教育実践内容等の商業教育の魅力を中学校をはじめとして広く地域社会にPRし、理解を求めていく取り組みを進める。 ・地域社会と学校との間で「人」や「情報」の交流を増やし、地域社会からの信頼と協力を得る中で、「生きた学習」の機会を増やせるよう取り組みを進める。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育（進路指導）」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	(1)多様な学習活動や学習成果を適切に評価する評価手法の検討をおこなう。 【活動指標】 商業科目において、研究を進める。 【成果指標】 生徒のアンケート等による成果と課題の検証	評価方法の手法や評価基準の研究を進めることができた。 ・プレゼンテーションでの評価方法 ひき続き評価方法の研究等に取り組んでいく。	◎
キャリア教育の充実	(1)進路ガイダンスの充実 望ましい進路選択を行えるよう、内容を検討する。 (2)インターンシップの充実 インターンシップの目的を再度洗い直すとともに、生徒が主体的に進められるよう取り組む	・ガイダンスの内容及び方法について具体的な改善にまで至らなかったが、より効果的な取り組みとなるよう引き続き検討していきたい。	

改善課題

- ・多様な学習活動の評価手法等の研究をはじめ、評価基準の作成や評価方法について一定の成果を残せたと願いが得るが、様々な授業のすべての形態に合う手法にまでは達しておらず、引き続き研究を進めていく必要がある。
- ・主体的な進路選択やより具体的な職業観の育成に向けてのインターンシップ等の在り方については、引き続き検討が必要である。特にインターンシップについては、2年次に実施することから、就職・進学両面において、主体的な進路選択につながる内容であることや、将来の就業に向けた明確な職業観の育成につながるものとなるような工夫を進めていく必要がある。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上の 取り組み	(1)校外の研修会・講習会等への積極参加 (2)教員相互の授業研究 【活動指標】年2回	校外研修・講習会 のべ8名派遣(簿記講座、JAVA 講座) 教員相互の授業研究もほぼ予定どおり実施で きた。実施率95%	◎
情報提供	(1)授業、学校行事等の公開 【活動指標】年3回以上 【成果指標】参加者アンケート等での検証	授業公開日の休日への変更、人権フィールドワ ーク発表会などを公開、在校生による中学校へ の出前授業等の実施(5回)。 活動指標に対する実施率100%	
地域との連携	(1)地域行事等への参加 【活動指標】地域イベント等への参加 実施 1 回以上	新町フェスタへの参加による商業高校の取組 みを伝えるとともに地域との連携を進めることが できた。実施率100%	
総勤務時間の 縮減	(1)行事や取組の精選を進める。 (2)年次有給休暇等の取得促進などに取り組 み、教員の勤務時間の縮減に取り組む。	行事等の在り方については、改善を検討し、検 討結果次年度から反映させる予定。 教員の勤務時間の縮減については、継続して 取り組む必要がある。	※

改善課題

総勤務時間の縮減については、部活動指導を含めた全体の中での取り組みを検討することが必要である
が、三重県でのインターハイや国体を間近に控えていることもあり、難しい状況にある。

5 学校関係者評価

明らかになった 改善課題と次へ の取組方向	○校内での様々な取組は毎年改善が図られているものの、今後は教員が主導して進める 部分を減らして、生徒が主体的に考えて取組を進められるようになることが必要。 ○授業での学習成果物を、「生徒が作った」ということを明記しPRをさらに行うなど せっかくの取り組みをうまく伝える工夫をさらにおこなうことが必要。
-----------------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動につ いての改善策	今年度目標としていた商業教育活の実践については、一定の成果を出すことが出来たと考える が、基礎学力の充実をもとに専門的知識や技能の取得をより一層推進するために、各教科間の連 携のための連絡調整の場を検討していく。
学校運営につ いての改善策	・今年度取り組んだ内容の反省及び精査をおこなうとともに、地域との連携について、今年度の 新町フェスタへの参加を足がかりに、関係団体との協議を密にはかり、進めていきたい。 ・総勤務時間の縮減についても、学校全体で協議の場を持ち、改善を図れるよう努力していく。